

「ジャパンサーチ（仮称）」公開までにやるべきこと

資料 1 - 3

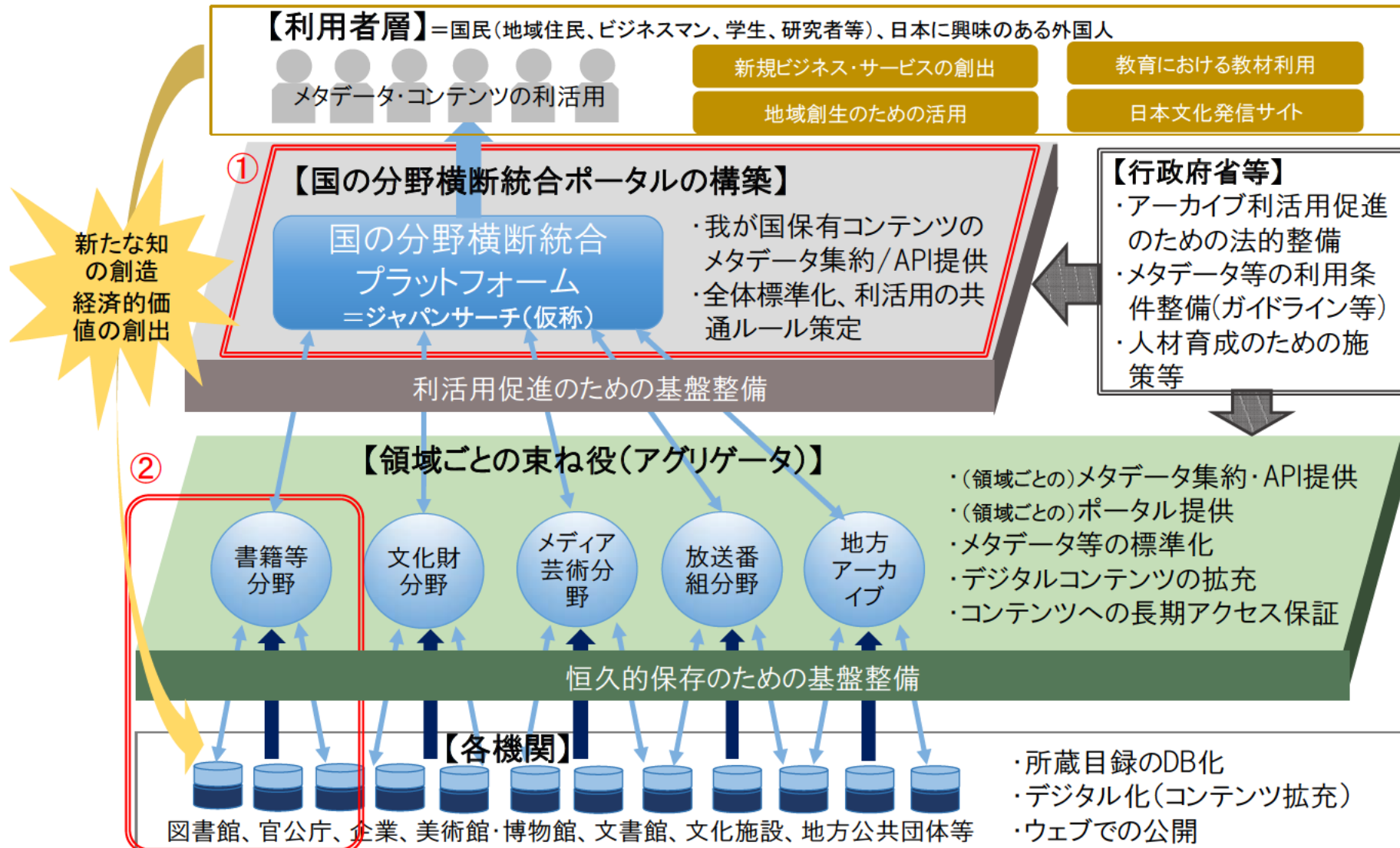
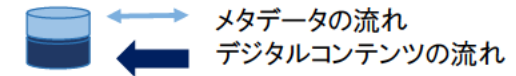
	システム構築（ハード面）	体制構築（ソフト面）
2016 年度		○文化遺産オンラインと国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）との一部連携の実現 ○文化庁（文化遺産オンライン）と国立国会図書館（NDLサーチ）との連携に関する文書の取り交わし ○我が国におけるデジタルアーカイブ推進のためのガイドライン策定（への協力） ○図書館以外の領域のメタデータ等の検討
2017 年度～	○「ジャパンサーチ」の機能要件の検討 ○「ジャパンサーチ」プロトタイプ of 構築 ○「ジャパンサーチ」基本設計・詳細設計 ○「ジャパンサーチ」開発 （連携先機関：「ジャパンサーチ」と連携するための一部システム改修）	○様々な分野コミュニティの代表とのコンソーシアムの構築（内閣府知財事務局との連携を通じて） ○コンソーシアムを通じた分野横断可能な標準メタデータフォーマットの検討 ○標準メタデータフォーマットの推奨（ガイドラインの提示） ○各アーカイブ機関（国・自治体等含む）のオープンデータの推進 ○各分野コミュニティの代表アーカイブとNDLサーチとの連携 ・（文化庁）文化遺産オンライン全件 ・（文化庁）メディア芸術データベース ・（放送番組センター）放送ライブラリ など ○「ジャパンサーチ」運用体制の構築 ・NDL単独ではなく、様々な分野・代表機関が関わるようにする（上記コンソーシアムの拡大？） ○海外主要アーカイブ（Europeana：欧州、DPLA：米国）との連携



ジャパンサーチ(仮称)の公開へ

「ジャパンサーチ（仮称）」実現に向けて

※赤枠が国立国会図書館の役割



例：観光資源のオープンデータ流通の促進（イメージ）

